

3. 回答結果と分析

(1) まとめと分析

(2) 以下に示される平成20年度後学期の集計結果について、設問ごとの分析を行った。各設問に対して肯定的な評価を行った学生の割合を算出し、科目別平均と全科目平均を示した。これらの数値から全体的な傾向及び各科目の特徴を把握し、今後の対策について提案を行った。なお、「英語」に関しては(計)の数値を分析の対象としている。また、本アンケートは今学期(平成20年度後学期)より導入された修学支援システムよりweb上で実施した。紙媒体で実施していた前学期(平成20年度前学期)以前とは、回収率に差があるので、正確な経年変化とは言えないが、参考に過去の集計結果を併せて掲載する。

1) 「あなた自身に関する質問」に対する学生の自己評価

1-1) 出席状況

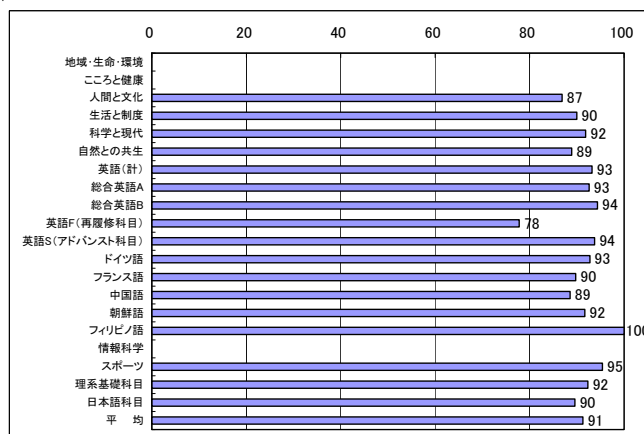
出席状況については、『全部出席』または『1-2回欠席』と回答した学生の割合を示した。この割合は、全科目平均で91%に達している。また、科目別の結果を見ても、半数以上の科目で90%以上の高い数値となっている。学生の出席状況は概ね良いと言える。単位の認定の前提条件として3分の2以上の出席が求められていることから、これらに対する取り組みの成果と判断できよう。

出席状況
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	86		90	
ところと健康	87		89	
人間と文化	90	87	84	86
生活と制度	86	88	82	89
科学と現代	89	85	87	86
自然との共生	90	88	89	89
英語(計)	93	94	94	94
コミュニケーション英語A・総合英語A			96	95
コミュニケーション英語B・総合英語B			95	93
英語C			91	96
英語F(再履修科目)			74	67
英語S(アドバンスト科目)			90	100
ドイツ語	93	94	92	85
フランス語	96	95	97	100
中国語	90	84	88	86
朝鮮語	90	91	94	92
フィリピン語	100	100	78	67
情報科学	91	100	93	
スポーツ	95	96	94	96
理系基礎科目	91	89	92	90
日本語科目	94	100	90	91
平均	91	90	91	91

表1 設問1-1 出席状況
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	87	
ところと健康	89	
人間と文化	85	87
生活と制度	82	90
科学と現代	89	92
自然との共生	85	89
英語(計)	95	93
総合英語A	96	93
総合英語B	96	94
英語F(再履修科目)	57	78
英語S(アドバンスト科目)	88	94
ドイツ語	96	93
フランス語	95	90
中国語	94	89
朝鮮語	92	92
フィリピン語	100	100
情報科学	93	
スポーツ	92	95
理系基礎科目	91	92
日本語科目	84	90
平均	90	91



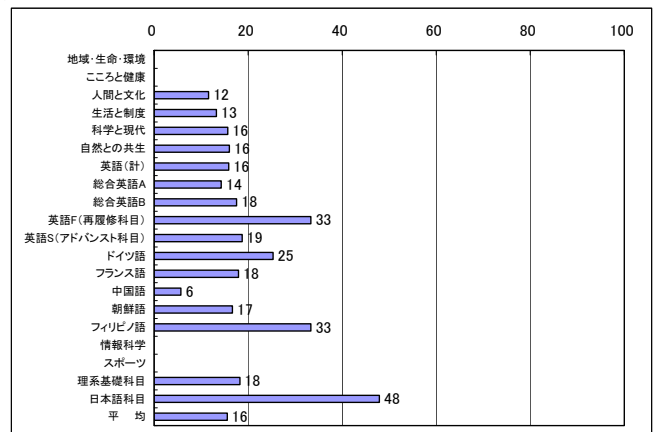
1-2) 授業時間外学習

「授業時間外学習」のうち、設問1-2aは、1週間の総合学習時間が『11時間以上』または『8-11時間程度』と回答した学生の割合を示している。全科目平均で16%と大変低い値となっている。また、設問1-2bでは、アンケートを実施した授業に関する学習時間が『3時間以上』または『2時間程度』と回答した学生の割合を示している。当該授業科目について2時間以上授業時間外学習を行う学生の割合は、全科目平均で9%とやはり大変低い値となっている。

現行の単位制度では、1単位は標準45時間（「教員が教室等で授業を行う時間」及び「学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間」の合計）の学修を要する教育内容をもって構成されている。そのため、授業時間外の学習時間が短いことは問題である。そのような中で「フィリピン語」は67%の値を得ている。これらの科目での課題の出し方も参考にして、学生の授業時間外学習を促していくことが必要である。

表2 設問1-2a 授業時間外学習
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	14	
ところと健康	14	
人間と文化	13	12
生活と制度	12	13
科学と現代	18	16
自然との共生	16	16
英語(計)	13	16
総合英語A	12	14
総合英語B	13	18
英語F(再履修科目)	22	33
英語S(アドバンスト科目)	22	19
ドイツ語	15	25
フランス語	13	18
中国語	6	6
朝鮮語	12	17
フィリピン語	29	33
情報科学	11	
スポーツ		
理系基礎科目	20	18
日本語科目	21	48
平均	14	16

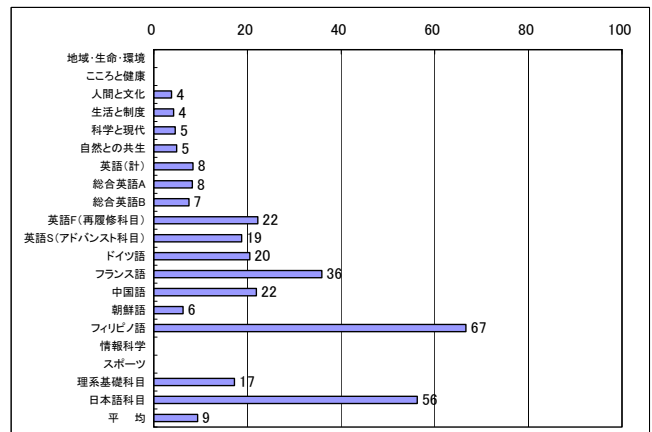


授業時間外学習
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	15		18	
ところと健康	14		15	
人間と文化	16	16	18	18
生活と制度	15	14	16	20
科学と現代	15	21	16	19
自然との共生	10	24	22	19
英語(計)	27	30	22	30
コミュニケーション英語A・総合英語A			17	32
コミュニケーション英語B・総合英語B			19	27
英語C			34	36
英語F(再履修科目)			28	29
英語S(アドバンスト科目)			27	30
ドイツ語	19	29	37	40
フランス語	38	39	40	33
中国語	23	25	24	28
朝鮮語	19	18	17	20
フィリピン語	0	33	33	33
情報科学	11	0	14	
スポーツ				
理系基礎科目	31	38	34	39
日本語科目	51	53	43	39
平均	21	26	23	27

表3 設問1-2b 授業時間外学習
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	9	
ところと健康	7	
人間と文化	10	4
生活と制度	7	4
科学と現代	19	5
自然との共生	13	5
英語(計)	10	8
総合英語A	8	8
総合英語B	11	7
英語F(再履修科目)	4	22
英語S(アドバンスト科目)	34	19
ドイツ語	22	20
フランス語	22	36
中国語	8	22
朝鮮語	7	6
フィリピン語	43	67
情報科学	4	
スポーツ		
理系基礎科目	20	17
日本語科目	26	56
平均	12	9



1-3) 目的・目標達成度

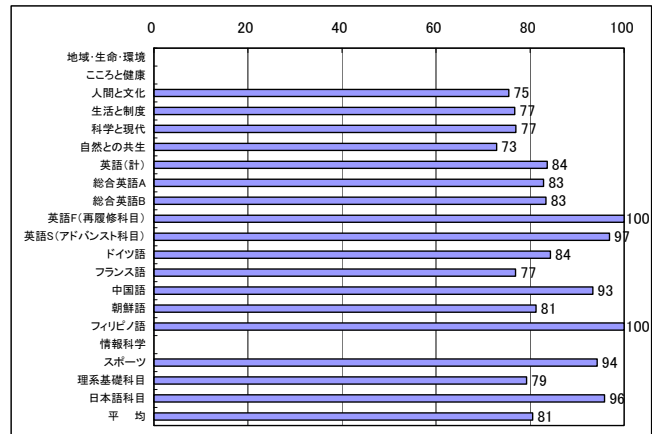
「目的・目標達成度」では、自分自身がこの授業の目的・目標を達成したかどうかを質問している。全科目平均で81%の学生が肯定的評価をしている。経年変化の平成18年度と19年度の値は、学生自身に関する質問ではなく、授業全体に関する質問の中で授業の目的・目標が達成されたかどうかを質問したものである。今学期の質問の趣旨とはやや異なる集計結果である。授業全体を客観的に評価する（平成18年度、19年度）よりも、自分自身が授業の目的・目標を達成したかどうかについて評価する場合に値が低くなる傾向が出ている。その中でも「スポーツ」は94%と、例年と同じ程度の割合の学生が授業の目的・目標を達成したと答えている。また、「理系基礎科目」は前学期64%であったのが後学期は79%となっており、目的・目標達成度がかなり上昇している。「スポーツ」は実技であるので、目的・目標達成度が認識しやすいという側面はあると思うが、他の科目群も70%を超えている。まずまずの目的・目標達成度と言える。

目的・目標達成度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	83		82	
ところと健康	75		80	
人間と文化	86	83	87	83
生活と制度	89	79	78	85
科学と現代	77	77	82	81
自然との共生	75	86	89	87
英語(計)	86	90	87	89
コミュニケーション英語A・総合英語A			92	93
コミュニケーション英語B・総合英語B			80	84
英語C			89	92
英語F(再履修科目)			90	96
英語S(アドバンスト科目)			98	100
ドイツ語	71	87	72	91
フランス語	83	95	90	97
中国語	81	89	85	91
朝鮮語	87	85	93	95
フィリピン語	88	100	100	78
情報科学	77	100	70	
スポーツ	95	93	93	96
理系基礎科目	75	78	76	82
日本語科目	100	100	98	100
平均	81	84	82	87

表4 設問1-3 目的・目標達成度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	68	
ところと健康	72	
人間と文化	79	75
生活と制度	70	77
科学と現代	74	77
自然との共生	79	73
英語(計)	73	84
総合英語A	77	83
総合英語B	67	83
英語F(再履修科目)	86	100
英語S(アドバンスト科目)	88	97
ドイツ語	75	84
フランス語	76	77
中国語	70	93
朝鮮語	68	81
フィリピン語	86	100
情報科学	63	
スポーツ	95	94
理系基礎科目	64	79
日本語科目	92	96
平均	72	81



1-4) 学習資源

「学習資源」に関する設問は、平成20年度前学期より新たに設けられた。学習内容や課題でわからないことがあった場合に、『独力で解決する』という回答が一番多く、次いで『友人や先輩に教わる』『教員に教わる』『放置する』『スタディヘルプディスクを利用する』の順となっている。前学期に比べ『友人や先輩に教わる』が減少し『独力で解決する』が増加した理由としては、学生自身が学習方法を見つけた、大学の学習に慣れてきた、ということが考えられるのではないかと。また、スタディヘルプディスクの利用が少ない理由としては、担当科目が英語・数学・物理・生物と、主に理数系であることが関係していると思われる。理数系以外の質問も受け付けていることや、授業で教員から積極的に紹介するなどして、スタディヘルプディスクの利用を促していくことが必要であろう。8%の学生が『放置している』と回答しており、学習内容や課題が、わからないまま授業を終えることになる学生がわずかながらいることになる。授業中の学生への啓発が必要であろう。

表5 設問1-4 学習資源
(全回答数に対する割合(%))

	平成20年度(前)				
	①教員	②友人や先輩	③独力	④SHD	⑤その他
地域・生命・環境	11	47	35	1	5
ところと健康	11	47	37	1	4
人間と文化	19	41	32	1	6
生活と制度	15	41	38	1	5
科学と現代	14	41	40	3	3
自然との共生	19	39	35	1	6
英語(計)	13	52	32	1	2
コミュニケーション英語A	15	51	31	1	1
コミュニケーション英語B	9	55	32	1	2
英語F(再履修科目)	20	22	53	2	4
英語S(アドバンス科目)	34	33	31	1	2
ドイツ語	15	45	37	1	3
フランス語	21	51	26	0	2
中国語	21	48	30	0	1
朝鮮語	27	39	33	0	1
フィリピン語	42	33	17	0	8
情報科学	20	57	19	1	3
スポーツ	35	53	8	0	3
理系基礎科目	10	49	37	2	2
日本語科目	51	29	20	0	0
平均	15	48	32	1	3

表5 設問1-4 学習資源
(全回答数に対する割合(%))

	平成20年度(後)				
	①教員	②友人や先輩	③独力	④SHD	⑤放置
地域・生命・環境					
ところと健康					
人間と文化	13	36	38	0	13
生活と制度	10	37	39	1	13
科学と現代	9	35	44	1	12
自然との共生	10	33	38	0	18
英語(計)	18	41	37	1	4
総合英語A	19	41	36	1	3
総合英語B	14	43	37	1	5
英語F(再履修科目)	9	27	55	0	9
英語S(アドバンス科目)	40	24	34	0	2
ドイツ語	21	40	37	0	3
フランス語	18	42	38	0	2
中国語	21	38	39	0	3
朝鮮語	30	38	31	0	1
フィリピン語	40	20	40	0	0
情報科学					
スポーツ	1	7	83	7	2
理系基礎科目	13	41	40	0	5
日本語科目	59	26	11	1	3
平均	14	37	40	1	8

2) 「授業内容・授業方法に関する質問」に対する学生の評価

2-1) 授業の難易度

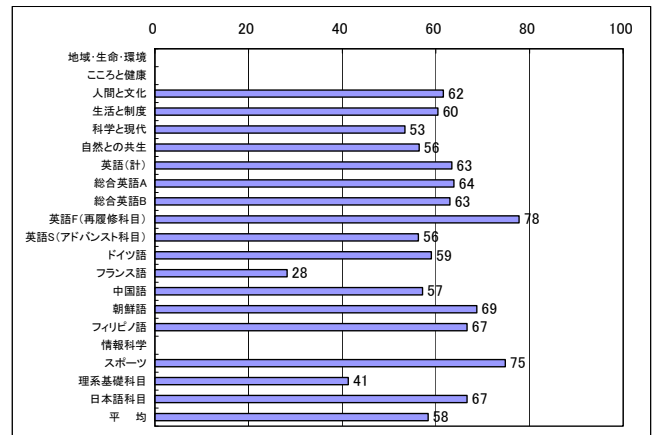
「授業の難易度」については、選択肢が5択であるため、3番目の選択肢『ちょうどよい』の値を示している。全科目平均で58%となっていて、約4割の学生がレベルの適切さを感じていないということになる。数値の低い「フランス語」「理系基礎科目」については、その意味を解釈する、より深いデータ収集を行い、レベルの再設定などを検討すべきである。この設問の評価が低くなる要因は、学生の学習履歴の多様化、大学での学習技術の未習得、学習ニーズ分析不足など複合的である。授業の検討のみならず、プレースメントテストの実施による正確な学力把握や、未習・補習、学習相談窓口等の個別対応型学習支援サービスの提供もあわせて考える必要があろう。

レベル
(全回答数に対するC評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	56	47	48	47
ところと健康	43	47	47	45
人間と文化	49	48	52	45
生活と制度	54	46	47	49
科学と現代	41	39	45	42
自然との共生	50	52	51	47
英語(計)	51	53	52	56
コミュニケーション英語A・総合英語A			57	56
コミュニケーション英語B・総合英語B			48	54
英語C			50	63
英語F(再履修科目)			48	53
英語S(アドバンス科目)			63	50
ドイツ語	33	37	31	33
フランス語	34	37	31	44
中国語	49	46	53	56
朝鮮語	56	44	61	45
フィリピン語	0	0	0	0
情報科学	39	0	24	
スポーツ	60	55	54	59
理系基礎科目	35	31	35	33
日本語科目	54	64	71	54
平均	46	45	45	48

表6 設問2-1 授業の難易度
(全回答数に対するC評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	54	
ところと健康	64	
人間と文化	63	62
生活と制度	57	60
科学と現代	47	53
自然との共生	64	56
英語(計)	59	63
総合英語A	62	64
総合英語B	56	63
英語F(再履修科目)	59	78
英語S(アドバンス科目)	57	56
ドイツ語	46	59
フランス語	32	28
中国語	67	57
朝鮮語	62	69
フィリピン語	14	67
情報科学	28	
スポーツ	63	75
理系基礎科目	37	41
日本語科目	69	67
平均	52	58



2-2) 授業の進度

「授業の進度」については、選択肢が5択であるため、3番目の選択肢『ちょうどよい』の値を示している。全科目平均の肯定的評価が79%であり、「フィリピン語」と「理系基礎科目」以外は70%以上の値となっている。今後、更に授業の組み立て方、カリキュラムについての検討が必要となる。

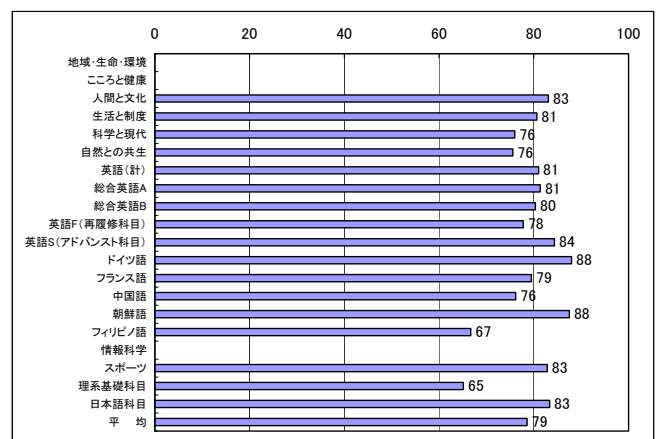
また、平成18年度及び19年度の値に比べて、今年度の値が低くなった要因としては、設問の設定の違いが関係していると考えられる。平成18年度及び19年度は『授業の進度および毎回の授業における時間配分は適切だった』という質問に対して、①強くそう思う②まあそう思う③あまりそう思わない④全くそう思わない、の4つの選択肢から回答させていた。下の表の値は、①強くそう思う②まあそう思う、という回答の合計値を現している。一方、今年度は『この授業の進度について、どのように感じましたか』という質問に対して、①早すぎた②やや早かった③ちょうどよい④やや遅かった⑤遅すぎる、の5つの選択肢から回答させた。下表の値は③ちょうどよい、という回答のみを示している。内容的には同じだが、質問の仕方によって評価が異なっているという点に留意されたい。

進度・時間配分
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	74		83	
ところと健康	82	88	88	90
人間と文化	86	88	88	90
生活と制度	92	85	85	87
科学と現代	84	83	87	85
自然との共生	81	85	89	90
英語(計)	81	95	91	92
コミュニケーション英語A・総合英語A			95	94
コミュニケーション英語B・総合英語B			86	87
英語C			92	97
英語F(再履修科目)			96	97
英語S(アドバンス科目)			100	100
ドイツ語	79	88	78	93
フランス語	86	95	96	98
中国語	84	91	91	96
朝鮮語	91	90	95	95
フィリピン語	63	83	89	100
情報科学	74	100	70	
スポーツ	93	92	91	93
理系基礎科目	79	81	80	82
日本語科目	94	100	97	100
平均	83	87	86	89

表7 設問2-2 授業の進度
(全回答数に対するC評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	72	
ところと健康	76	
人間と文化	78	83
生活と制度	73	81
科学と現代	70	76
自然との共生	74	76
英語(計)	80	81
総合英語A	84	81
総合英語B	76	80
英語F(再履修科目)	82	78
英語S(アドバンス科目)	81	84
ドイツ語	63	88
フランス語	64	79
中国語	78	76
朝鮮語	72	88
フィリピン語	43	67
情報科学	47	
スポーツ	73	83
理系基礎科目	56	65
日本語科目	83	83
平均	70	79



2-3) 教員の話し方

「教員の話し方」については、全科目平均では81%の肯定的評価となっている。全体的に高い値を示している中で、「自然との共生」「理系基礎科目」が70%台前半の値となっている。わかりやすさに影響を及ぼす要因は大きく2つあり、授業内容そのものの難易度が高い場合と、授業における教授方法（テクニック等）に起因する場合は考えられる。「自然との共生」「理系基礎科目」は「授業の難易度」についても、全科目の平均を下回る評価が出ており、教授方法とあわせて見直しをする必要がある。

経年変化については、設問のタイトルこそ「わかりやすさ」「教員の話し方」と異なるものの、設問の内容は、平成18年及び19年も今年度も全く同じ文言（教員の説明の仕方はわかりやすかった ①強くそう思う②まあそう思う③あまりそう思わない④全くそう思わない）を使っているので比較の対象となる。それによると例年、前学期は70%台の評価となっており、後学期は80%の値に上昇している。これは、学生自身が大学の授業に慣れてきたということが言えるのではないだろうか。

わかりやすさ

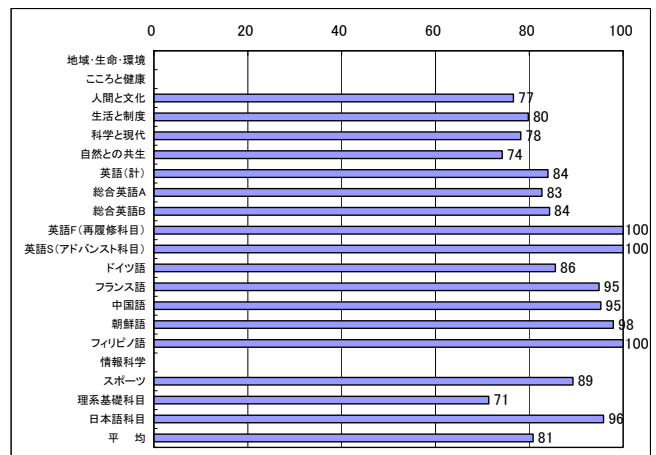
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	80	75	77	
ところと健康	70	77	86	
人間と文化	82	82	86	80
生活と制度	91	77	76	82
科学と現代	77	72	78	74
自然との共生	71	82	85	81
英語(計)	86	90	86	88
コミュニケーション英語A・総合英語A			92	91
コミュニケーション英語B・総合英語B			78	84
英語C			88	92
英語F(再履修科目)			87	96
英語S(アドバンス科目)			98	100
ドイツ語	61	82	58	83
フランス語	80	95	87	96
中国語	80	84	89	93
朝鮮語	88	85	96	96
フィリピン語	88	83	100	89
情報科学	65	100	58	
スポーツ	92	94	90	95
理系基礎科目	65	69	67	72
日本語科目	97	100	98	99
平均	76	81	78	83

表8 設問2-3 教員の話し方

(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	74	
ところと健康	79	
人間と文化	80	77
生活と制度	75	80
科学と現代	77	78
自然との共生	72	74
英語(計)	80	84
総合英語A	83	83
総合英語B	76	84
英語F(再履修科目)	94	100
英語S(アドバンス科目)	97	100
ドイツ語	68	86
フランス語	78	95
中国語	85	95
朝鮮語	94	98
フィリピン語	57	100
情報科学	62	
スポーツ	86	89
理系基礎科目	62	71
日本語科目	95	96
平均	74	81



2-4) 教材の使い方

「教材の使い方」は、学生の理解を促すため、教授手法としてパソコン、プロジェクター等の機材や模型、標本等の実物教材、また配付資料や教科書等を効果的に利用していることを確認する指標であり、全科目平均では84%の肯定的評価を得た。科目ごとに見てみると「朝鮮語」と「フィリピン語」が100%と高い肯定的評価を得ている。一番低い値の「理系基礎科目」でも76%の値を得ており、全科目において教材が有効に使われていると考えられる。視聴覚教材は、学生の理解を促す有効な教材であることには間違いないので、今後も積極的に使用すべきであろう。

視聴覚教材

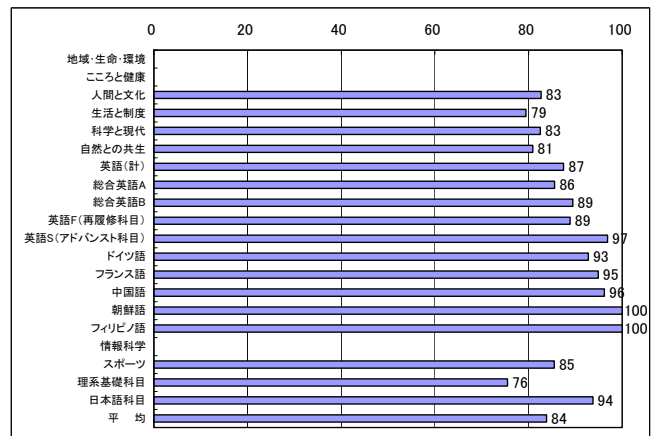
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	87	82	82	
ところと健康	80	85	84	
人間と文化	84	85	82	83
生活と制度	85	74	70	80
科学と現代	79	83	86	86
自然との共生	82	90	89	89
英語(計)	84	88	84	84
コミュニケーション英語A・総合英語A			86	85
コミュニケーション英語B・総合英語B			82	82
英語C			86	88
英語F(再履修科目)			87	92
英語S(アドバンス科目)			96	100
ドイツ語	58	70	60	84
フランス語	77	90	88	92
中国語	70	81	81	86
朝鮮語	91	87	93	99
フィリピン語	50	83	78	89
情報科学	85	100	84	
スポーツ	85	88	84	
理系基礎科目	65	68	67	69
日本語科目	100	89	91	92
平均	77	80	79	81

表9 設問2-4 教材の使い方

(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	79	
ところと健康	83	
人間と文化	83	83
生活と制度	79	79
科学と現代	78	83
自然との共生	78	81
英語(計)	86	87
総合英語A	88	86
総合英語B	83	89
英語F(再履修科目)	92	89
英語S(アドバンス科目)	96	97
ドイツ語	68	93
フランス語	77	95
中国語	88	96
朝鮮語	99	100
フィリピン語	100	100
情報科学	77	
スポーツ	76	85
理系基礎科目	66	76
日本語科目	98	94
平均	78	84



2-5) 双方向性

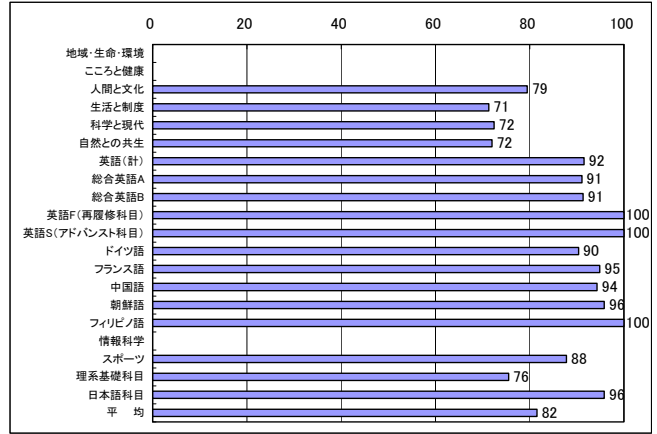
この設問は、教員と学生の間でコミュニケーションが図られているかを確認する指標である。全科目平均では82%の肯定的評価を得た。科目別の結果を見ると、知の展開科目である「生活と制度」「科学と現代」「自然との共生」がやや低い値を示している。大人数講義の科目においても、今以上に教員と学生の間でコミュニケーションを図っていくことが望まれる。コミュニケーションの手法をFD等で積極的に学び、授業に取り入れてほしい。

コミュニケーション
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	67		66	
こころと健康	53		62	
人間と文化	80	79	81	76
生活と制度	69	67	64	71
科学と現代	62	66	70	68
自然との共生	68	77	77	71
英語(計)	94	96	92	93
コミュニケーション英語A・総合英語A			96	96
コミュニケーション英語B・総合英語B			85	88
英語C			94	98
英語F(再履修科目)			94	99
英語S(アドバンス科目)			100	100
ドイツ語	79	92	73	89
フランス語	88	95	91	99
中国語	77	86	86	90
朝鮮語	91	88	92	97
フィリピン語	100	100	89	100
情報科学	57	100	57	
スポーツ	85	87	86	90
理系基礎科目	68	68	67	69
日本語科目	94	98	100	99
平均	74	79	76	80

表10 設問②-5 双方向性
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	68	
こころと健康	69	
人間と文化	79	79
生活と制度	71	71
科学と現代	75	72
自然との共生	76	72
英語(計)	87	92
総合英語A	93	97
総合英語B	81	91
英語F(再履修科目)	96	100
英語S(アドバンス科目)	96	100
ドイツ語	79	90
フランス語	84	95
中国語	91	94
朝鮮語	93	96
フィリピン語	100	100
情報科学	59	100
スポーツ	85	88
理系基礎科目	68	76
日本語科目	94	96
平均	76	82



2-6) シラバスへの準拠

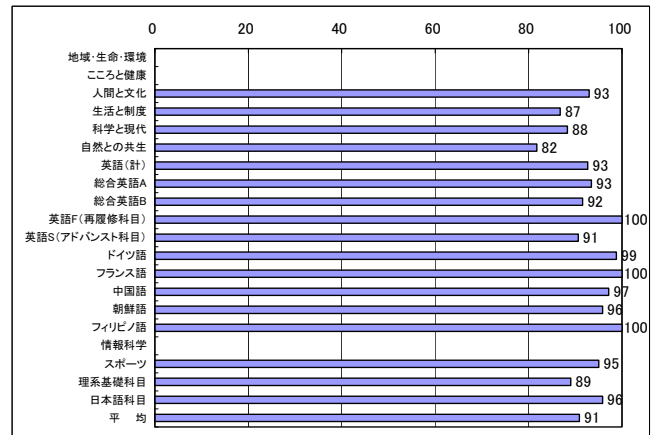
「シラバスへの準拠」については、一番低い値でも「自然との共生」の82%、全科目平均で91%を得ていて、高い肯定的評価を得た。多くの学生が「シラバスどおりに授業が行われた」と感じていると言える。シラバスに書かれている内容は教員と学生との間の契約事項としての役割をもっている。今後もシラバスに沿った授業を行っていくことが求められる。また、当初のシラバスとは異なる授業を行う場合にも、シラバスを変更した上で、学生に変更点や変更理由をきちんと説明することが重要である。

シラバスどおりの授業
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	88		84	
こころと健康	88		89	
人間と文化	91	87	90	89
生活と制度	92	86	85	88
科学と現代	84	84	87	86
自然との共生	86	86	90	88
英語(計)	90	94	90	91
コミュニケーション英語A・総合英語A			92	91
コミュニケーション英語B・総合英語B			88	89
英語C			92	93
英語F(再履修科目)			91	95
英語S(アドバンス科目)			94	100
ドイツ語	77	90	79	92
フランス語	94	99	98	98
中国語	84	92	95	95
朝鮮語	94	84	94	96
フィリピン語	63	100	100	100
情報科学	86	100	87	
スポーツ	89	90	90	93
理系基礎科目	85	88	87	89
日本語科目	97	96	98	99
平均	87	88	88	90

表11 設問2-6 シラバスへの準拠
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	83	
こころと健康	87	
人間と文化	89	93
生活と制度	86	87
科学と現代	84	88
自然との共生	83	82
英語(計)	89	93
総合英語A	97	93
総合英語B	86	92
英語F(再履修科目)	86	100
英語S(アドバンス科目)	95	91
ドイツ語	87	99
フランス語	93	100
中国語	92	97
朝鮮語	95	96
フィリピン語	86	100
情報科学	90	100
スポーツ	90	95
理系基礎科目	83	89
日本語科目	97	96
平均	87	91



2-7) 改善への意欲

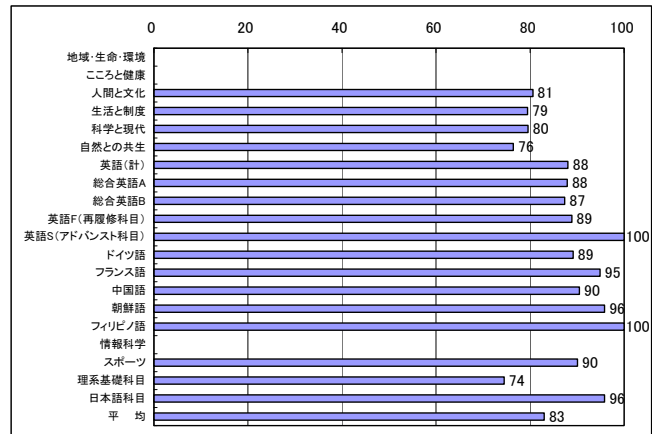
「改善への意欲」については、学生から意見を聞くなどして授業を改善する努力に対し、全体では83%の学生から肯定的評価を得た。ミニッツペーパーや授業中のコミュニケーションによって学生から授業の問題点を引き出し、教員がどのように問題点を認識しているのか、改善に向けてどのような対処を行うのかということ、学生に伝えることが必要であろう。学生にとって当該授業との出会いは一期一会の機会であることからすると、改善への意欲が彼ら・彼女らに伝わるよう工夫することは、教員としての責務であろう。

改善度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	73	74	74	
ところと健康	65		75	
人間と文化	84	80	79	79
生活と制度	79	74	69	78
科学と現代	68	72	75	76
自然との共生	72	78	82	81
英語(計)	84	88	85	87
コミュニケーション英語A-総合英語A			90	89
コミュニケーション英語B-総合英語B			79	83
英語C			86	89
英語F(再履修科目)			91	88
英語S(アドバンスト科目)			94	100
ドイツ語	61	84	64	83
フランス語	78	91	85	96
中国語	69	83	75	87
朝鮮語	85	87	91	95
フィリピン語	88	100	78	89
情報科学	57	100	57	
スポーツ	85	87	88	89
理系基礎科目	69	71	69	75
日本語科目	86	89	86	95
平均	73	79	76	82

表12 設問2-7 改善への意欲
(全回答数に対するA, B, E評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	75	
ところと健康	75	
人間と文化	82	81
生活と制度	76	79
科学と現代	80	80
自然との共生	72	76
英語(計)	83	88
総合英語A	86	88
総合英語B	78	87
英語F(再履修科目)	86	89
英語S(アドバンスト科目)	97	100
ドイツ語	66	89
フランス語	78	95
中国語	79	90
朝鮮語	96	96
フィリピン語	71	100
情報科学	63	
スポーツ	88	90
理系基礎科目	67	74
日本語科目	91	96
平均	76	83



2-8) 授業の満足度

「授業の満足度」については、全体で83%の肯定的評価を得た。その中で「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「朝鮮語」「フィリピン語」の語学系、また「スポーツ」「日本語科目」において90%以上の高い評価を得ていて、全科目を見ても約80%前後の肯定的評価を得ている。

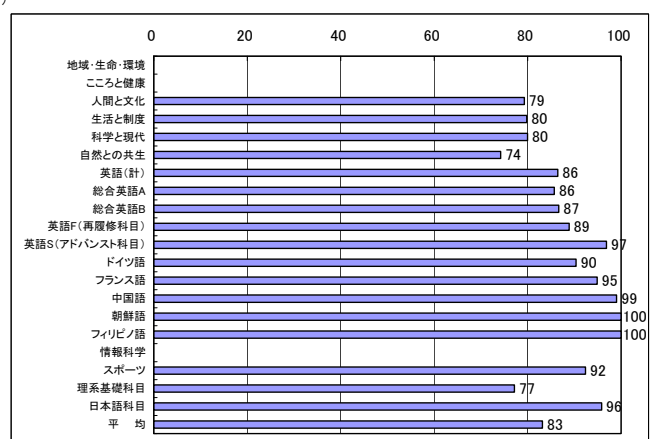
共通教育のありかたを論じる場合に、いたずらに学生の反応に振り回されてはいけないが、授業は受け手に受容されない限り、効果を期待することはできない。満足度の向上の為に、カリキュラムの面からも問題がないか、絶え間なく検証する必要がある。

満足度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	81		79	
ところと健康	73		80	
人間と文化	83	81	84	81
生活と制度	88	76	74	82
科学と現代	76	73	81	80
自然との共生	72	83	88	84
英語(計)	86	90	87	88
コミュニケーション英語A-総合英語A			92	91
コミュニケーション英語B-総合英語B			79	83
英語C			89	93
英語F(再履修科目)			88	93
英語S(アドバンスト科目)			98	100
ドイツ語	68	84	68	89
フランス語	84	95	85	99
中国語	81	89	87	92
朝鮮語	89	83	96	96
フィリピン語	88	83	100	78
情報科学	73	100	66	
スポーツ	94	93	93	94
理系基礎科目	70	73	71	76
日本語科目	89	100	98	99
平均	79	81	80	84

表13 設問2-8 授業の満足度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	79	
ところと健康	82	
人間と文化	85	79
生活と制度	79	80
科学と現代	79	80
自然との共生	78	74
英語(計)	84	86
総合英語A	88	86
総合英語B	80	87
英語F(再履修科目)	94	89
英語S(アドバンスト科目)	97	97
ドイツ語	97	90
フランス語	80	95
中国語	91	99
朝鮮語	97	100
フィリピン語	100	100
情報科学	70	
スポーツ	93	92
理系基礎科目	69	77
日本語科目	99	96
平均	79	83



最後に、今学期のアンケート結果は、初めてのweb上での実施であり、回収率において紙媒体で実施していた平成20年度前学期以前と比べると、かなり低下している。今後、アンケート回収率の上昇のための方策を考える必要がある。